

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度技術情報第34号(イチゴのハダニ類)について (送付)

イチゴのハダニ類について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導を
よろしくをお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosh/index.html>) にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第34号

3月中旬におけるイチゴのハダニ類の発生ほ場率は高く、発生程度の高いほ場も認めています。天敵の効果が見られる、発生が少ないほ場では、必要に応じて天敵に影響の少ない農薬で適宜防除を行い、発生の多いほ場では徹底した防除を行ってください。

1 対象病害虫 ハダニ類 (ナミハダニ)

2 対象作物 イチゴ (本ぽ)

3 発生状況および情報の根拠

- 3月中旬の調査では、発生ほ場率は91% (平年49%) と過去10年間で最も高く (図1、図2)、発生程度の高いほ場も認めた (表1)。なお、主な発生種はナミハダニであった。
- 今後も気温が高くなると予想され、発生に好適な条件が続くことから、発生の増加が懸念される。

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- 発生の少ないほ場では、天敵の効果を確認しながら、必要に応じて天敵に影響の少ない農薬を使用し適宜防除を行う。
- 発生の多いほ場では、防除を徹底する。天敵を使用している場合でも、発生状況に応じてリセットを考慮した防除を行う。
- 農薬の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏に付着するよう散布する。
- 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。
- 農薬によっては、感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する。
(詳細は令和7年度技術情報第28号、令和8年2月18日付参照)
- 農薬によっては、ミツバチに影響があるため選定に注意する。



5 参考データ

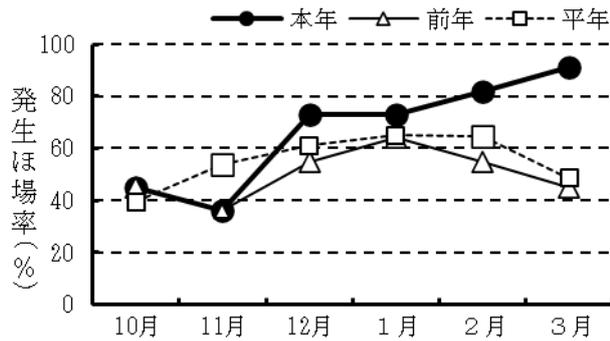


図1 ハダニ類の発生ほ場率の推移

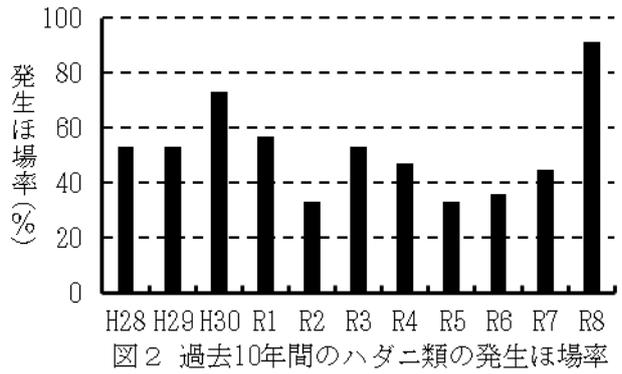


図2 過去10年間のハダニ類の発生ほ場率

表1 ハダニ類の発生状況調査¹⁾

調査地点	調査ほ場数	発生程度別 ²⁾ ほ場数				
		甚	多	中	少	無
日置市伊集院町	4	0	1	0	3	0
志布志市有明町	4	0	0	1	2	1
志布志市松山町	3	0	0	0	3	0
計	11	0	1	1	8	1

注1) 調査日:令和8年3月10~17日

注2) 発生程度(寄生株率) 甚:96%以上、多:71~95%、中:41~70%、少:1~40%

(参考) 令和7年度技術情報第28号より、イチゴのナミハダニ雌成虫及び卵に対する各種農薬の殺虫、殺卵効果(令和8年、室内試験)

供試農薬名	RACコード	成分名	希釈倍数	伊集院個体群				カブリダニ ⁴⁾ への影響		ミツバチへ ⁵⁾ の影響
				殺虫効果(雌成虫) ¹⁾		殺卵効果 ²⁾		影	残	
				24h	48h	72h	7日後			
アグリメック	6	アバメクチン	500	×	◎	◎	△	×	7	14日(定植後の使用を避ける)
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2000	×	◎	◎	×	×	7	2日
コロマイト水和剤	6	シルバメクチン	2000	×	◎	◎	◎	×	7	1日
コテツフロアブル	13	クロルフェピル	2000	×	×	△	◎	×	14	10~15日
カネマイトフロアブル	20B	アセキシル	1000	×	○	◎	◎	◎	0	乾◎
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナート	1000	×	◎	◎	×	◎	0	1日
スターマイトフロアブル	25A	シヒルラフェン	2000	×	×	△	○	◎	0	1日
ダニサラバフロアブル	25A	シフルトフェン	1000	×	×	×	×	◎	0	1日
ダニコングフロアブル	25B	ピフルブミト	3000	×	×	×	×	◎	0	1日
グレーシア乳剤	30	フルキサミト	2000	◎	◎	◎	◎	×	100↑, -	1日
ダニオーテフロアブル	33	アジナピル	2000	◎	◎	◎	◎	◎	0	乾◎

1) 殺虫効果: 放飼24、48、72時間後の補正死亡率を×: 0~30%未満、△: 30~60%未満、○: 60~80%未満、◎: 80%以上を示す

2) 殺卵効果: 産卵7日後の殺卵率を×: 0~30%未満、△: 30~60%未満、○: 60~80%未満、◎: 80%以上を示す

3) 試験方法 ①採集日: 令和7年10月22日(イチゴ施設栽培ほ場)
②検定: 殺虫効果試験: 食餌浸漬法、殺卵試験: 産卵葉の浸漬
③展着剤: ベタリンA(10,000倍)を加用

4) カブリダニ(フリカブリダニ、ミツコブリダニ)への影響は、アリスタライフサイエンス株式会社 天敵等への殺虫・殺ダニ剤の影響表第36版(2025年11月更新)から引用 ◎: 影響が小さい、×: 強い影響ありを示す 残: 天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数、グレーシア乳剤の100↑はフリカブリダニに対して100日以上の影響、-はミツコブリダニに対して残日数が不明であることを示す

5) 薬剤のミツバチへの影響は、農薬ハンドブック2026(一般社団法人日本植物防疫協会)及び農薬会社HPから引用。日数記載は記載の日数以降空けてから導入が可能 乾◎: 薬液乾燥後は影響なし *影響のない農薬でも散布時は蜂を巣箱に回収し、薬液が乾いてから活動させる